

よかところ通信

2014年4月号

O2Farm【オーツーファーム】 大津耕太&愛梨
〒869-1501 熊本県阿蘇郡南阿蘇村両併 587
Tel&Fax : 0967-62-3730
E-mail: mail@o2farm.net
O2FarmWeb : www.o2farm.net

さぁ春爛漫！所によっては、初夏の兆しも見えているのではないのでしょうか。農作業の方は、1年で一番忙しい時期を迎えています。毎年4月号は内容が盛りだくさん過ぎてまとめるのに苦労するのですが、さぁ、ご報告を始めます。

田植えまであと約1か月。昔の人は「米を作る」とは言わずに、「田を作る」と言っていました。3月下旬から、田んぼに水を引き込むための水路を整備したり（1年間でたまった泥をさらいます）、畦（あぜ）を作ったり、堆肥や肥料（鶏糞と菜種油粕）を撒いて耕したりして、「田んぼ」の準備を進めています。シーズン始めのこの時期が一番体力を使うので、なまっていた体が悲鳴をあげます。筋肉痛、足腰の張り、日焼け。夜な夜な温泉に行って体をほぐすのですが、行けなかった翌日は、その違いにびっくり。温泉はやっぱりすごいんだなと思いました！



一方、昔から「苗半作（なえはんさく）」と言われており、苗の良し悪しでその年のお米の出来が大きく左右されるのだそう。田んぼの準備と並行して、苗づくりの準備も進んでいます。まずは「いいタネ」を選別。塩などで比重を大きくした水に、タネを浸し、浮いてくるものは中身のない悪いタネ。それを網で掬い取ってから、60度のお湯に10分間浸けます。そうすると、雑菌が死滅するとのこと。その後、すかさず冷水で5分間以上冷やします。



この一連の作業をひたすら朝から晩までするわけなんですけど、消毒は、化学薬品を使えば1時間もかからないはず。ちなみに、水路の整備も、コンクリートで固めた水路ならずとずとラク。でも、そういう「手間」こそ、食の安全はもちろん、美



しい田園風景や豊かな生態系、ひいては昔から伝わる知恵や文化を守るものだと思っていて、今年も精を出しました。



田園風景と言えば、我が家の目の前にある「天神さん」が、「阿蘇の希少な地域資源」に認定されました！特に観光資源でもなければ、文化遺産等に選ばれるほどのものでもない。でも、「ごくありふれた農村の風景」こそ守っていくべき大切な資源だ、というお墨付きをもらったような気がして、とっても嬉しいです。

体力を使う仕事が盛りだくさんの春のO2ファームに、またまた貴重な助っ人がやってきました。それも遠方から。イスラエル出身のロシア人、ローマン君、24歳。日本のマンガやゲームも大好きだそうで（別にオタクではありませんが）、村上春樹さんの本にも影響されていたところ、日本の有機農業の第一人者、福岡正信さんの本を読んで「ぜひすぐにでも日本に行きたい！」と思ったのだとか。ユダヤ教徒ではないという彼は、何でも美味しいと言って食べてくれるし、自分からどんどん仕事を見つけ出しては、テキパキ働いてくれるので、正直、そうとう助かっています。ジャグリングができたり、ギターが弾けたり、フリスビーが上手かったりして、子供たちにとって最高のお兄さん。言葉の壁を越えて、一緒にゲームをしたり、ジャグリングを教わったりしています。彼女募集中とのことで、お心当たりがありましたらぜひ！



3月はいろんな出番を与えられて、月の半分しか阿蘇にいなかったというおかしな状況だったのですが、どれもこれも本当に刺激的なものばかりでした。最後は東京で開催されたイベントで登壇。「半農半X」という考え方（生き方）を提唱している塩見直紀さんという方との対談をしました。今でこそ専業農家と言えますが、11年前に農業を始めた時、「半農半X」の考え方には大いに支えられました。農業だけじゃ暮らしにくいなら、他の仕事を持てばいいんだ！と思うと、とっても気が楽になったからです。実際、最初の数年は、翻訳や調査の仕事なんかも受けて暮らしていました。

3月はいろんな出番を与えられて、月の半分しか阿蘇にいなかったというおかしな状況だったのですが、どれもこれも本当に刺激的なものばかりでした。最後は東京で開催されたイベントで登壇。「半農半X」という考え方（生き方）を提唱している塩見直紀さんという方との対談をしました。今でこそ専業農家と言えますが、11年前に農業を始めた時、「半農半X」の考え方には大いに支えられました。農業だけじゃ暮らしにくいなら、他の仕事を持てばいいんだ！と思うと、とっても気が楽になったからです。実際、最初の数年は、翻訳や調査の仕事なんかも受けて暮らしていました。

そうそう、この1カ月に子供たちの春休みもありました。私の仕事にくっついて東京に行き、子供たちだけで数日間、私の実家で過ごした彼ら。普段とまったく違う環境をそれなりに楽しんできたようです。阿蘇に戻ってからは、近所の子たちと一緒に、タケノコを掘ったり、カブトムシの幼虫を見つけてきたり、畑で野球をしたり。遊びが忙しくて、最近あまり農作業を手伝わなくなってきた小学生たちですが、その遊び方というのが、本当にのびのびしていて創造性に富み、そして年の違う近所の子たちと協調しながらの遊びなので、微笑ましい限りです。たまにガラスを割りそうになって怒られたり、ついていけなくなった三男が泣きつきに来たり。こんな豊かな場所がいつまでも残っていてほしいなあと思って止みません。



さあ、来月の通信では、田植えのご報告ができる予定です。残り1か月弱。ぬかりなく準備を進めていきたいと思います。皆さま、楽しいゴールデンウィークをお過ごしください！